

災害・オウム対策調査特別委員会 報告資料【追加】

令和 7 年 1 0 月 1 6 日

報告事項件名	頁
1 【追加】令和 7 年度水害時個別避難計画に基づく移送訓練の実施結果について・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2

(福 祉 部)

災害・オウム対策調査特別委員会報告資料

令和7年10月16日

件 名	【追加】令和7年度水害時個別避難計画に基づく移送訓練の実施結果について						
所管部課名	福祉部 福祉管理課						
内 容	河川氾濫を想定した個別避難計画書事業において、移送訓練を実施したので、以下のとおり報告する。 1 実施日時 令和7年7月22日（火）午前9時～12時00分 2 訓練協力者（要支援者） (1) 両下肢障がい者（自立歩行不可） 1名 (2) 視覚障がい者（全盲） 1名 3 訓練概要 (1) 訓練協力者の居住地 ⇄ 福祉避難所（佐野地域学習センター）の移送 ア 両下肢障がい者は車いすリフト付き車両による避難 イ 視覚障がい者は移送事業者による同行援護による避難 (2) 避難所受付、居室への同行援護（視覚障がい者） (3) 福祉避難所にて段ボールベッドを体験 (4) トイレ誘導（視覚障がい者） (5) 避難所でのケア体験 健康チェック：検温、血圧測定、酸素飽和濃度測定 4 整理すべき課題とその方向性 <table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th><th>方向性</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実働訓練は避難者視点の理解や補助方法の習得に繋がるため、より多くの職員に訓練に参加してもらう必要があり、過去訓練を実施していない施設で開催することが重要である。</td><td>令和8年度から1年に複数施設の訓練実施を検討する。</td></tr> <tr> <td>従来の訓練シナリオでは、訓練協力者の避難所滞在時間が短いことから、施設確認や備蓄品体験が一時的なものに留まり、現実的な避難生活のイメージを掴むことが難しい。</td><td>滞在時間を延長したシナリオへの変更を検討する。</td></tr> </tbody> </table>	課題	方向性	実働訓練は避難者視点の理解や補助方法の習得に繋がるため、より多くの職員に訓練に参加してもらう必要があり、過去訓練を実施していない施設で開催することが重要である。	令和8年度から1年に複数施設の訓練実施を検討する。	従来の訓練シナリオでは、訓練協力者の避難所滞在時間が短いことから、施設確認や備蓄品体験が一時的なものに留まり、現実的な避難生活のイメージを掴むことが難しい。	滞在時間を延長したシナリオへの変更を検討する。
課題	方向性						
実働訓練は避難者視点の理解や補助方法の習得に繋がるため、より多くの職員に訓練に参加してもらう必要があり、過去訓練を実施していない施設で開催することが重要である。	令和8年度から1年に複数施設の訓練実施を検討する。						
従来の訓練シナリオでは、訓練協力者の避難所滞在時間が短いことから、施設確認や備蓄品体験が一時的なものに留まり、現実的な避難生活のイメージを掴むことが難しい。	滞在時間を延長したシナリオへの変更を検討する。						